

【教育理念・目的・目標・行動指針】

建学の理念

知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成

本学の教育理念

本学の建学の理念「知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成」に基づき、教育理念を以下のように定める。

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。

本学の教育目的

北海道医療大学の教育理念に沿って、幅広く深い教養に基づく豊かな人間性と高度で正確な専門知識・技術を有し、保健・医療・福祉を中心とする多様な分野と連携・協調して行動し、地域社会や国際社会で活躍できる専門職業人の養成を本学の教育目的とする。

本学の教育目標

北海道医療大学の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
2. 確かな専門の知識および技術の修得
3. 自主性・創造性および協調性の確立
4. 地域社会ならびに国際社会への貢献

臨床データサイエンス学環の教育理念

高度化と多様化の進む医療の現場を活躍のフィールドとして、先端的なデータサイエンス技術を活用できるような臨床データサイエンティストを育成することを教育理念とする。

臨床データサイエンス学環の教育目的

人の心と体に関する知識を持ったうえで、医療人としての視点に立って、データサイエンスの技術により課題を解決できる実践力を身につけられるようにすることを教育目的とする。

臨床データサイエンス学環の教育目標

臨床データサイエンス学環の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 先進技術、瞬発力、実践力： データサイエンスに関する先進的技術を瞬発力をもって利用できる実践的な技術力の修得
2. 医療倫理、医療人の視点： 医療倫理を順守して、医療人の視点に立った課題解決能力の涵養
3. 主体性、創造性、自己研鑽： 主体的に社会の課題を捉え、創造的な解決に向けて自己研鑽を続ける姿勢の醸成
4. グローバル、多様性、社会貢献： 英語などの語学力を生かし、多様な文化や価値観を尊重してグローバルに活躍できる能力の涵養
5. コミュニケーション、多職種連携、協働： 医療専門職とのコミュニケーション能力を通して多職種で協働できる能力の涵養

【北海道医療大学の三方針】

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

北海道医療大学は、大学および各学部学科の教育理念・教育目的に基づいた教育目標の達成に向けて、全学教育および専門教育科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、各学部学科が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

北海道医療大学は、教育理念にある「保健と医療と福祉の連携・統合」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる専門職業人の養成に向けた教育課程を編成します。すなわち、幅広く深い教養と豊かな人間性・自立性・創造性・協調性の修得をめざす「全学教育科目」、および確かな専門知識と技術の修得をめざす各学部・学科の「専門教育科目」を適切に組合せた学士課程教育を提供します。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

北海道医療大学は、「21 世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、豊かな人間性や協調性・創造性等に加えて、保健と医療と福祉に関して各学部学科の高度な研究に裏打ちされた専門性の高い教育を行います。本学卒業には各学部学科の「学位授与の方針」の要件を満たすこと、すなわち、全学共通基盤の知識・技術・態度が必要となるばかりではなく高度な専門性の修得が要求されます。そのため、各学部学科では学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材の受入れについて「入学者受入れの方針」として定めています。

【臨床データサイエンス学環の三方針】

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

臨床データサイエンス学環の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 一般的なデータサイエンティストとしてのデータ分析・解析・AI などにかかるスキルにより瞬発力をもって課題を解決でき、加速度的に広がる生成 AI などの先進的技術を応用できる実践能力を身につけている。
2. 人の心と体の基礎知識をもち、患者中心のケア、医療倫理の遵守などのケアの原則を踏まえ、「医療人としての視点」に立ったデータサイエンティストとしてふさわしい解決策の策定能力を身につけている。
3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
4. プログラミング言語を世界の共通言語として捉えるとともに、多様な文化と価値観を尊重し、データサイエンティストとして地域及び国際社会に貢献できる能力を身につけている。
5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

臨床データサイエンス学環の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。また、教員は、ポリシーに照らした取り組みの適切性について、実効性のあるPDCAサイクルを持って自己点検・評価を行う。

教育内容

1. データ分析・解析・AI などに関わる実践的な技術を身につけるために、1年次には、データサイエンスのリテラシーレベルとプログラミングや AI の基礎に関する科目(全学教育科目)を、2年次には、AI の応用に関する科目(基幹教育科目)を配当する。また、3年次には、先進的技術を応用する能力を身につけるために、生成 AI に関する科目(基幹教育科目)を配当する。
2. AI の根幹を数学やプログラミングとして捉えるのではなく、人の心と体としても捉えられるように、1年次から2年次にかけて、人体の構造や機能に関する科目(医療系基礎教育科目)を配当する。また、医療人としての視点を身につけるために、患者中心のケアや医療倫理に関わる科目(全学教育科目、医療系専門教育科目)を1年次から3年次にかけて段階的に配当する。
3. 主体的に社会の変化を捉える能力を養うために、2年次から3年次にかけて、医療・保健・看護・福祉・心理のフィールドにおけるケーススタディができる科目(医療系専門教育科目)を配当する。また、生涯にわたり自己研鑽できる姿勢を養うために、全学教育科目・医療系基礎教育科目・医療系専門教育科目に対して、データサイエンスとの連携を深められる基幹教育科目を1年次から4年次にかけて段階的に配当する。
4. 多様な文化と価値観を身につけられるように、1年次に、語学や人類学に関わる科目(全学教育科目)を配当する。また、地域社会に貢献できるように、地域が抱える医療に関わる課題を学べる科目(医療系専門教育科目)を配当する。さらに、データサイエンスの技術により国際社会に貢献できるように、英語で視聴できるデータサイエンスに関わる科目(基幹教育科目)を配当する。
5. 多職種と協働できるようなコミュニケーション能力を身につけるために、多職種連携に関する科目(全学教育科目)を1年次から4年次にかけて段階的に配当する。

教育方法

1. 全学教育科目・医療系基礎教育科目・医療系専門教育科目と基幹教育科目との連携を深めながら、段階的に実践的なキャリアプランニング・アントレプレナーシップ教育を実施する。

2. 医療専門職とのコミュニケーション能力を醸成するために、全学教育科目・医療系基礎教育科目・医療系専門教育科目については、医療専門職を目指す学生と共に学べるようにする。一方、データサイエンスのスキルを確実に身につけるために、基幹教育科目については、少人数で集中して学べるようにする。
3. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
4. 授業外学修やオンライン・オンデマンド学修を支援するために、ICT 活用教育環境として、充実した学内 LAN 環境やマルチモーダル生成 AI プラットフォームを活用した e Learning 教材を提供する。マルチモーダル生成 AI プラットフォームでは、基幹教育科目の講義を英語で視聴できるようにする。
5. 学生が自らの学修履歴を振り返り、個別最適な学修デザインの支援を受けられるように、人工知能による学修 e ポートフォリオを取り入れる。

評価方法

1. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、実技試験、ルーブリックを用いたレポート評価などを適宜実施する。
2. 学修 e ポートフォリオでは、授業科目ごとにディプロマポリシーに沿った到達目標や身につけられる能力を明記して、学修成果に対する評価の基準を学生と教員で共有する。
3. 卒業研究も含めた4年間を通した総括的な学修に対しては、学修 e ポートフォリオを資料の1つとしながら、教員によりディプロマポリシーに沿って評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

臨床データサイエンス学環では、学位授与の方針の要件を修得し、医療人としての視点に立って、多職種の医療人と協働しながら、データサイエンスのスキルで社会に貢献できる人材養成を目標としている。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求める。

1. データサイエンスを学ぶための基礎学力を有し、生成 AI などの先進的技術に関心を持っている人。
2. 保健医療福祉分野に関心があり、データサイエンティストとして活躍したいという意志を持っている人。
3. データサイエンティストとして主体的に学び、生涯にわたり自身の能力や知識を向上させる意志を持っている人。
4. 地域社会や国際社会に関心を持ち、データサイエンスの技術を応用して課題解決しようとする意欲を持っている人。
5. 医療に関わる多様な人々と協働して学ぶ意欲を持っている人。

入学者選抜の基本方針

臨床データサイエンス学環では、入学後、高い倫理観や多様な文化と価値観を学ぶ「全学教育科目」、人の心と体を学ぶことで臨床の基礎知識を修得するとともに AI の根幹を知る「医療系基礎教育科目」がある。すなわち、高校で学習した数学、理科、社会、国語、英語などの幅広い基礎学力を有し、多面的な考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながる。ここで、「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることを指す。ただし、理科と社会については、各々、理科や社会に関わる少なくとも1科目を履修していることを指す。

総合型選抜

これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書・志望理由書等により評価する。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価する。

学校推薦型選抜

学校長等からの推薦をうけて、人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を面接・プレゼンテーション・調査書・志望理由書等により評価する。また課題レポート・小論文などにより論理的思考力、表現力を評価する。

一般選抜・共通テスト利用選抜

これまでの学習・活動履歴や人物ならびに目的意識と入学後の学習意欲を調査書・志望理由書等により評価し、学力試験により、英語・数学・理科等の多様な基礎学力を評価する。